



天明^考太平記

又

~ 13
3315
5



今銀錢室為山海一師師立其子
喉一吳國之名產振其為集り心したる
る所あり何れ名をとりり時を平賀
深月之友の十り折是近思なり成其七
まもり中あし是るに先諸家之國を護り
總づし進り先子島山城を富を平賀
そしお徳下一紙松平圓勝と及是女を
高老井上守其を以て同防と及高老の因り

お徳と及紙お徳のり及び偏を新一其結
ひりり又水地お徳及その借侯方之國を治
ひりり信と紙汁ひりり信紙病一其女其長
其の進云の事たを思ひあ一其計しなり
天りし物跡を道成り今ハ其百七十年
大名幸長相良一城を成事一城ある
之所又其の事なり一先祖對一其美
其の事なり一其の事なり一其の事なり

るもあーまあがー神楽石田沼原先程
ハ下神田沼材しち氏あま下あまの友
百あああーまあ毎時身山生備しま
世ま一人の海指まんま心若しま
依親有るま毎時女を欲すの一向
ま成りつて神楽食を志し心を河年
毎時し時かましそらまを来んを
思ひまーまを伴し少減をし物と

海あぞ思ひ程まらまに嬌ま少減を家
振き秋今天下し概政を成るま来下
神田沼材しち氏あま下あまの友
も河年一帯あまを信用んを心
り先帝が女更のし叶まらま先程し
國り神田沼材しち氏あま下あまの友
女更を家あまの思ひまあがー
振きあまの容身あまの思ひまあがー

又其の... 入り... 故...
 山城... 中... 種... 下... 國...
 田原村... 郷... 成... 祖... 成...
 三... 今... 大... 成...
 大... 郡... 成...
 安... 郡... 成...
 經... 郡... 成...
 家... の... 者... 成...

久... 存... 系... 國... 種... 成...
 世... 成... 成...
 三... 成... 成...
 日... 種... 成... 成...
 百... 成... 成...
 五... 種... 成... 成...
 成... 成... 成...
 成... 成... 成...

いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし

いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし
いふ事あるはつりしるはまはし何年か
まは信負の持しるはつりしるはまはし

佐野の母を以て家へ召し成不持の系男
を備語んと思はれ長命し成不持の佐
野大切の御前下官男の侍もまはし
又女房よりも御前下官男の侍もまはし
くも思はれ御前下官男の侍もまはし
佐野の母を以て家へ召し成不持の系男
あり女房よりも御前下官男の侍もまはし
何れも思はれ御前下官男の侍もまはし

と思ひ家の中へ召し成不持の系男
ハ毒あり御前下官男の侍もまはし
家の系男とお似たり女房よりも御前下官男の侍もまはし
の肉中御前下官男の侍もまはし
大切し御前下官男の侍もまはし
思あり女房よりも御前下官男の侍もまはし
まはし御前下官男の侍もまはし
思ハ御前下官男の侍もまはし

礼を以ては方々一町の土を以て神及
中まらりぬ敷る難多のり社を来り
まはりて月田原の敷及対面致さる也
西にお振まふ敷の如田原の如地の四田
沼村におまはりて他所敷と系易お振り
まはりて田原敷と系易ゆあり敷る如
三敷物者ありし系易を以て人合中敷他
はて別物者系易を備き 〇如物者

系易の枝を以て人合の成意の如く何年
も君と申す一系易を備きて一向札
まはりて敷る如く〇中敷物ありて形紙
ありて是れ如く及んで人合の如く敷見
中へ一換授致しぬ之候も女子を
中敷一ヤリと申す近敷る一と申す
若者の如くありて人合の如く敷る如く
中敷の如くありて人合の如く敷る如く

竹野宮内府より三秋系國之方の事
白紙の如く振るの中は日蓮上人
の如くありおしは素の毒の方ゆは
ふた女弟ハ由所中とありと書
中より山城子夜は道徳たるが云
一云の情一と書は道徳たるが云
しそ中よりハ道徳の及取起あり
陸多を極まり一系書を一
流しあり

市は是れ由の如く保あが
徳念の如く勤行し御り依神
因より取の如く後母あり
て正徳園田信村一郷士と成
病あり十も中し悪あり邪
の肉の如く十年を死に
年貢の如く素直の如く
長く書る一とあり

〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも
〜田沼の反りも田沼の反りも

成り上りも利を曲り曲り
中よりありありと
手自伝説も
いまだあり
由りし流中
系上仕づ
山城も反り
まろく好も

江戸の事々々 江戸をお訪中々々々々々
 中々々々々々 江戸の及 江戸の方々々々々々
 中対面々々 江戸の月々々々 江戸の礼々々々
 返々々々々 是非あ々々 喜々々々 交々々々 交々々々 交々々々



天の右平化巻々々々

凡そ農工商も夫々の職分家業を固て
 今日と云ふ夏世夏一般の然る世写本
 可也種々の書入又 飛之賞来々々々
 男女の陰陽を 画き君臣父子の中や
 同く多し 是第必竟一時の興衰
 其職分此道具 疵付の六解
 可也只言語と云々 其遇ちと外免卷中
 池田屋清吉 是と歎然不重 固て素代りて 諸君子所々々々

和 漢
 貸本所
 東京牛込細三町
 誠光堂
 池田屋清吉

